平成２８年度　第４回
川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 福原地区 ～

日　時：平成２８年１１月１６日（水）
　　午後６時３０分～８時００分
場　所：福原市民センター

参加者

福原地区　４０名

出席者

市長、栗原副市長、板東副市長、危機管理監、総合政策部長、市民部長、福祉部長、こども未来部長、保健医療部長、環境部長、都市計画部長、建設部長、学校教育部長

意見数

分　類	件数	内　容	頁
子ども・子育て	3	青少年を取り巻く現状	7
		子育て支援施設の建設	17
		たくましい子どもを育てる	18
福祉・保健・医療	3	高齢者を取り巻く現状	3
		高齢者のつどい	4
		健康寿命	5
教育・文化・スポーツ	1	学校の統廃合	23
都市基盤・生活基盤	10	通学路整備	7
		雨水対策	9
		遊水池用地	10
		県道の拡幅工事	12
		国道と県道を結ぶ市道の拡幅及び新設工事	12
		市道 6461 号線整備	15
		道路側溝	21
		ガードレール・歩道の整備	22
		農道の舗装	23
		生活道路優先の整備	24

産　業　・　観　光	1	循環型農業	20
環　　境	1	雑木林を残す取り組み	17
地域社会・市民生活	1	通学時間帯の交通規制	14
住民自治・行財政運営	1	福原市民センターの立て直し、消防署の設立	17
そ　の　他	1	福原地域会議の現状と課題	2
計	22		

意見交換（要約）

《福原地域会議の現状と課題》

意見　こんばんは。川合市長をはじめ、皆様には大変お忙しい中、ありがとうございます。

早速ですが、福原地域会議ではということで、課題について申し上げたいと思います。

福原地域会議では、3 部門に分かれまして協議を重ねてまいりました。高齢者部会、青少年部会、地域生活部会、この 3 つの部門で、5 年から 10 年先の福原地区のまちづくりのための問題、課題を取り上げてまいりました。

高齢者部会では健康寿命を高めていく、青少年部会では子供たちが安心して暮らせる環境づくり、地域生活部会では、安全・安心で暮らせる緑豊かな福原を目指すという目標を掲げております。

この目標を進めていくためには、まず、幹線道路、生活を支える連絡道路の不足、不十分な道路環境があります。市内中心部と連絡する道路は川越・所沢線に限られて

いるため、各生活道路に頼らざるを得ず、地区内での移動や駅へのアクセスが不便です。また、学校区が広いことから子供たちの通学距離が長く、かなり苦慮している点がございます。高齢者に対しても、歩道が未整備であるなど、歩行者の安全確保の面でも不十分であるため、道路、歩道の整備を進めていただきたいと思っております。

また、福原地区は、小学校、中学校、市民センターが隣接しております。このような立地条件を生かしていただき、地区会議では小・中学校の統合を進めていただき、その土地の空きができた箇所に、福原地区の地域生活、防災面の基盤となる市民センターの建設をお願いしたいと思います。また、地区内に消防署の設置も進めていただきたいと思っております。

《高齢者を取り巻く現状》

意見　最初に高齢者部会から質問等をさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

福原の人口は約2万人でございまして、このうち、いわゆる高齢者と言われる65歳以上の人口は5,200人となっております。これらの方たちに対しまして、民生委員等がいわゆる見守りを行っております。元気ですか、という声かけ、こういうイベントもありますよ、などといろいろ声かけをしております。基本はやはり会話することではないでしょうか。会話する、コミュニケーションをとる、そして、さらに地域のコミュニティーに参加していただくことが大事じゃなかろうかな、このことを基本に置いてやっておるわけでございます。

全く閉じこもったままで出てこない方もごくまれにはおります。その一方で、私どもの近くでも、非常に理想的な生活をしていると思っている高齢者もおります。朝早く起きて、朝日を浴びて深呼吸をしてラジオ体操をして、その後ウォーキングする。さらに、帰ってきて、今度は趣味のサークルで活動してくる。そういうパターンを持っている方がグループでいるわけです。80過ぎた方なんですが。これは本当にすばらしいことだと思っております。

福原地区は非常に雑木林に象徴されるように緑豊かな土地でございまして、新緑もゆるころといいますか、まさに生命の躍動を感じるような中、心がときめく時期もあります。緑地率などは、川越市の中では高いのではないかと思っておりますが、ただ一方、先ほどもありましたように道路が狭小で、非常に道路事情、交通事情が悪いわけです。幹線道路というのは本当に県道川越・所沢線1本だけでございます。歩道も

ありません。小学校、中学校の児童の通学も大変でございますし、高齢者がなかなか外へ出られないという現状でございます。

《高齢者のつどい》

意見　市民センターとか公民館というのが文化の発信基地といいますか、公民館にはいろいろな講座がたくさんあります。なるべくなら、お年寄りにこういう場に出てもらいたいと思っているわけでございますが、いかんせん道路事情が悪いという中で、唯一実施している高齢者向けのイベントがございます。これは福原地区の社会福祉協議会、あるいは老人会主体となって実施している「高齢者のつどい」というもので、毎年3月に南文化会館ジョイフルで実施しており、250人ぐらい集まってきております。

内容は、定番でございます警察の振り込め詐欺防止の寸劇とか、保健推進員の保健体操、それから伝統芸能の囃子がございます。こういった伝統の囃子を観ていただいたりしておりますが、一番のメインは、福原小学校1年生と福原中学校3年生による合唱でございます。

福原小学校1年生140人が、一斉にお年寄りに向かって合唱するわけです。これはまさに圧巻でございまして、聴き入るお年寄りも大感激、涙、涙でございます。それから、福原中学校3年生です。こちらは大分、大人びてまいりまして、力強い合唱をしてくれて何とも頼もしい限りでございます。この子どもたちが、福原の将来、川越の将来を担ってくれると思うと、何とも安心して希望が持てるわけです。非常に良い感じで、お年寄りの方が来年も行きますよと、よかったと言って感想を述べてくれます。

もちろんこれは、福原小学校、福原中学校の校長先生の協力を得て実施しておるわけでございますが、一堂に会してやるのはここだけなんです。ただ、先ほども言いましたように、交通事情がなかなか大変でございますので自治会ごとに大変苦労もございまして、タクシーで（皆さんを）集めて会場の南文化会館まで向かうなど、自治会ごとにいろいろ工夫をしております。

250人といいますと、さっき言った5,000人ですが、5,000人は、これは65歳以上ですから、対象者になりますと、例えば原則自治会員とか、あるいは65歳以上でも、65歳から74歳までのご夫婦の方は除外になるとか、そういう制約はありません。実質は2,000人です。2,000人の中の250人が来てくれるということでございまして、

これを年１回、出来たらもう少し増やしたい。喜びをもらうという会を趣向も凝らして変えるという、そんな考えもございますし、さらに自治会単位で、自治会バージョンといいますか、自治会館で食事をして、その後、保健講座だの、栄養講座だの、あるいは生きがいでも良いですね、そういう講座を催して半日を過ごしてもらいたいと考えておるところでございます。

《健康寿命》

意見　お年寄りに明るく元気で楽しい人生を送っていただきたい、こういう強い思いがございます。郷土福原にずっと住んでもらいたい、これに必要な前提は、やっぱり健康寿命を延ばすことではないかと、こう考えております。幸いにも川合市長が健康寿命日本一を目指すようなことをしまして、何とも心強い限りでございますし、非常に希望の持てることでございますので、関連した質問をさせていただきます。

現在、川越市のレベルは、全国レベル、埼玉県レベルのどの程度にあるかということ。それから、そのプロセス、日本一はなかなか難しいにしても、トップ水準に行く過程、5 年後、10 年後とか、その辺のお考えがあるかどうかというのをお聞きしたいと思います。

それから、具体的な施策についてです。どのようなアプローチをしていくのか。その中に川越市独自の施策はあるのか、その辺りをお聞きしたいと思います。健康ポイントをつけるなど、いろいろ考えている市もあるようでございますが、川越市独自のものがあるかどうか、あるいはそれを先進にするために、モデル地区についてなど、何か考えているのかどうかについても、良い機会でございますので、お聞かせいただければと思います。よろしくお願いをいたします。

市長　ご質問について、川越市の健康寿命の水準は、現状では必ずしもあまりよくないという、そういう状況でございます。埼玉県における川越市の健康寿命のランクは男性が 40 位、女性が 43 位ですね。どちらかといえば下 3 分の 1 くらいの上のほうにいるという状況でございます。3 年間の推移を見てみると、男性の場合は若干下がってしまった、女性は上がりつつあるという、そういうところでございますが、健康寿命年齢そのものは、少しずつでございますが延びてはいる、ということは言えます。

一方、埼玉県の健康寿命の順位はどうなんだということを考えたときに、平成 25 年度のデータですけれども、男性は全国で 21 位、女性は全国で 34 位というランクでございます。県も健康寿命 1 位を目指して頑張っているというところでございまして、

そのような中で、川越市としても、もっともっといろいろな面で工夫、努力をしていかなければならないというのが現状でございます。

具体的な施策として、事業の名前としては、「ときも健康プロジェクト」という名前で、健康寿命日本一を目指した幾つかの事業をやっております。

1つは、前から出ているように、ラジオ体操をやりましょうということで4年ほど前から推奨して、今ラジオ体操を皆さんが集まってやってくれているところが29カ所、市内にございます。皆さんが集まってラジオ体操をやる箇所数の数としては、県内では1位という、要するに皆さんよく体操をやってくださっているという、そういう状況でございます。しかしながら、ほかの施策、食べ物について、健康に良いような食べ物を食べていこうとか、健診をしっかり受けてできるだけ予防に励もう、それから、早期に悪いところを発見して早期に手を打とうという、そういう事業もそうなのですけれども、効果が出るまでにやはり一定程度の時間はかかるということは、ある意味ではやむを得ないことでございます。特に体操などは5年、10年のスパンで考えないと、効果は目に見えては出てこないのではないだろうかというふうに考えております。

ここでちょうど丸4年たちましたので、ラジオ体操をやっていただいている効果がこれから少しずつ出てくるのではないだろうかというふうに期待しているところでございます。

それから、モデル地区を導入する考えについてですが、今のところそういう考えはありません。健康寿命を延ばす事業を展開する、より進めていく有効な方法として、ある一定の地域をモデル地域に選んで、そこに特に重点的にやっていただくというようなやり方も有効な方法であろうというふうに考えますので、これからちょっと検討をしていきたいと考えております。

意見　ご丁寧なご回答ありがとうございました。

ちょっと漏れてしまったのですが、当然、健康寿命が延びることによって、医療費とか介護費の減少って考えられるんですよね。その辺り、何かシミュレーションみたいなものはありますか。

保健医療部長　なかなか正確な数値で申し上げることができないのですけれども、例えば特定保健指導などでは、県が厚生労働省の推計ツールを使って試算したところ、費用の約1.7倍の医療費削減効果があったと聞いております。川越市で幾ら削減されたというようなところは、シミュレーションはしてございません。

意見　ありがとうございました。期待しておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

《青少年を取り巻く現状》

意見　青少年部会の取り組みについてと質問をさせていただきます。

福原地区における青少年の取り組みの中で、小・中学校の先生方、ＰＴＡ、育成会、子どもサポート等の団体や地域の自治会等のご協力をいただきまして、日ごろ子供たちの安全見守りから、いろいろな行事への子供たちの参加等をお願いしている状況であり、子供たちの状態としては、人間関係は、すごく良好な状態であると我々は思っております。さらに、小さい子を上の学年の子が見ているような子供たちですので、将来も真っすぐ育ってくれると思っております。ではありますが、何点か気になるところがどうしてもございます。

《通学路整備》

意見　小・中学校が１カ所に集めてあるのですが、通学する児童・生徒の中には、近い方もおれば遠い方もというところがあります。交通の便を県道川越・所沢線にどうしても頼っていますので、通学路もそれに沿っており、そこを避ける、通学路を避けるというような状況でございまして、それに関しましては、遠いところでは朝早くから集合し、父兄の方の見守りを受けながらバス停まで歩くと。小学生もある程度の年齢、学年までいけば、バス停まで歩けるのかもしれませんが、1 年生がバス停まで行くのに大体 30 分以上かかるんです。私が違うバス停で歩いても、やっぱり 20 分以上かかります。その地区からですと大体それぐらいかかる状況です。

そちらに関しては、父兄同士で交代で車で送り迎え、というような方もいるようですが、それは、以前他県、あるいは他市であったと思うんですが、交通事故の際に補償なども問題になったことがあるようですので、ぜひスクールバスを考えていただきたい。それにより、安全に、事故に関してはバスでも同じというようなこともあるかもしれませんが、バスであれば時間的なものとしての安全をまず担保されますので、そちらのほうでお願いしたいということでございます。

あと、中学生については自転車通学を許可されている者もおります。その人たちの通学路、これについては、できるだけ県道川越・所沢線を迂回して学校に近づくような指定が出ます。そうしますと、夜間は自転車のライトがあっても街灯がない部分、

あるいは、あっても暗くて距離があり過ぎて、というようなところもあります。中学生になりますと、なおさら道路の表の明るい道路と違いまして、生活道路のほうですと砂利道もございます。でこぼこで少し危ないところもございますので、街灯の増設ができないかと、各自治会さんには年１個というようなことで要望を出して、出したらまた市のほうにぶつけていただけるということは聞いておりますが、やはり通学路としての整備ということを考えますと、集中的に街灯の整備をお願いしたいということでございます。

それと、通学路の中で、子供たちの朝、あるいは帰りに雨がちょっと強めに降りますと、長靴を履いていても水をかぶるようなどろどろのところもございまして、そちらのほうの道路状況、あるいは改善、縁石との境目が見えないから水がたまるところもございますので、そちらのほうも直しということをお願いしたいと思います。

我々は子供たちのことを考えて、まずそれを第一というふうに含んでおりまして、ぜひちょっとでもそういうことでお願いしたいということで、今こちらに取り上げておる次第でございます。決して子供たちがねじれるような地域ではございませんので、よろしくお願いしたいと思います。

市長　かなり遠距離を、路線バスを使って通学している子供さんがいるということは承知しております。

それで、ここのところでシャトルバスの見直しをやっているのですけれども、シャトルバスを通学時間帯だけこっちへ回すことができないかというようなことも今、検討はしているところです。もしそれがだめな場合、市としては２年後ぐらいをめどに、交通弱者の方を対象としたデマンドシステムのバスないしはタクシーのようなものを導入するという、そういう計画で物事を進めております。そのデマンドシステムのバスないしはタクシーを導入するときに、大野原地区の方の子供さんのためにそれを回すという、そういうようなことも検討の１つとして取り上げています。スクールバスについては、それも選択肢の１つではあろうかと思いますが、今申し上げたものと、それからスクールバス、その３つぐらいのうちから、どれか１つはそう遠からず実現したいというふうに考えております。

今まで出していなかったのですが、通学のバスの補助を出すということを決めまして、近々それはもう実現といいますか、補助は出すことになります。ただ、バス停まで行くのに、それこそ先ほどおっしゃられたように、30 分ぐらいの時間がかかるというところもあるということなので、それに対する対応としては、今申し上げたような

3つのうちのどれかは、そう遠からず実現したいというふうに考えております。

それと、街灯については、なかなかご要望が多くて次から次へとつけるというのが、いろいろ予算とかさまざまな面で難しい面があるんですが、できる限り対応はさせていただきたいというふうに考えております。

あと、道路整備は、確かにこちらのほうは、福原地区は、やや市全体から見て道路整備の面でおくれをとっている部分がありますので、その辺についてもこれからしっかりと対応していきたいというふうに考えております。

意見　ありがとうございました。

《雨水対策》

意見　地域生活部会を代表いたしまして、まず最初に、雨水対策についてご質問します。

福原地区内の関越自動車道付近及び県道川越・所沢線付近は、台風や大雨の際に冠水してしまいます。また、久保川が8月20日の台風9号の大雨により、中台自治会内で氾濫してしまいました。市として雨水対策全般でどのような考えがあるのか教えていただきたいと思います。

ここのところで冠水の被害を受けてしまった自治会長さんから、1つご意見をいただきたいと思います。

意見　私の地区は、正月に欠かせない野菜として、ホウレンソウ、コマツナ、サトイモ等を栽培している地区でございます。今晩タウンミーティングが開催されるということで、お時間いただき、台風9号について下松原地区の現状を報告いたします。

近年にない集中的な長時間の長雨がありました。地形といたしましはて、福原南部地域として下赤坂、下松原、今福原の各道路を見ますと、大雨が降った場合、関越自動車道が南北に通行する形になっているので、東西の下赤坂の本通り、また下赤坂の北の通り、また下松原の南の通りと下松原の本通り、それから今福原の本通り、あと、南北に下赤坂から下松原に通る道があるんです。それとあと、関越自動車道の側道の上り線と下り線の道路、全て数えてみますと7本の市道の水が全部、関越高速道路の排水溝に入る場面になります。そうすると、下松原の南部のアンダーパスと、下松原の支線の道路のアンダーパスが、今回の台風9号、8月22日の場合、水深140センチになりました。関越高速が開通して46年になるわけでございますが、過去最高で150センチぐらいになったことがあったと思いますが、これに匹敵するような水深であり

ました。こうなっていくと、下流の今福原の側道のほうも、その水圧でアスファルトが破れて、この道路は下赤坂から今福原のほとんどが一時的に車の通行止め、側道の道路も通行止め、東西も南北も全部通れない状態になるわけなんです。各被害を見ると、アンダーパスの中では、車 20 台以上は楽に使えなくなった状態になっております。

その間、私の地区に雷が落ちて物置が延焼しまして、消防車がその当時通行できなくて遅れ、物置が全焼したときがありました。その後、やはり同じような水深で台風がありまして、そのときは、女性が車の運転中に閉じ込められて、それをたまたま救出していただいた方が表彰されたこともあり、そのときはテレビ局が取材に来たこともあります。そのようなことがありましたので、今後減災を考えていくのならば、学校等の通学路等もありますので、川越市としてのお考えをお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長　最初の関越道路付近の雨水の排水の問題ですが、これは、現状では不老川を放流先とした道路側溝に流し込んで、不老川のほうに流す、あるいは地下に側溝からしみ込ませるというような、そういうような処理のやり方で行っているのが現状でございます。昨今の集中的に降る豪雨に対する対応としてはとても間に合わなくなって、アンダーパスがそれこそ水没してしまうという、そういう状況が生じているのは承知しているところでございます。今のところ、これに対して既存の排水溝の機能回復を図る等のそういう回復方法は検討はしているんですが、その先の方法についてはまだまだ検討がなされていないという、そういう状況でございます。

《遊水池用地》

意見　先ほどの意見に関連しまして、雨水対策のための遊水池や用水路をつくるための用地を考える場合、その場所や面積等の基準などはどのようになっているのでしょうか。また、費用はどのようになっているでしょうか。よろしくお願いします。

建設部長　遊水池について、こちらの福原地区につきましては、他の地域と違いまして用水路等がないということで、雨の処理には私どもも大変苦慮しているところが現状でございます。

そういった中で、遊水池をつくって底に水をためるというのは、大変有効であるというふうには考えているところでございますが、これの設置基準ということのお話でございますと、例えば遊水池をつくるとなれば、当然、地形的に一番水が流れ込んで

くるところに遊水池をつくるのが一番理想ということになってこようかと思います。

そして、決め方といたしましては、1時間当たりの降雨強度、今のところ遊水池をつくるときには1時間当たり55ミリというのが設計になっておりますが、その中で流れ込んでくる面積を計算いたしまして、遊水池の底にためる水の量を決めるということになってこようかと思います。それで面積が出てくるわけでございますが、事業費等は、福原地区は川越市の中でも地区的には広い面積を有しているところでございますので、もし事業化したということになれば用地費、土地を持っている方の用地へのご協力ですとか、自治会の皆様のご協力ですとか、いろいろ問題もあると思います。遊水池をつくるということであれば、そのような考えのもとで遊水池を決定していくということになろうかと思います。以上でございます。

意見　今福原自治管内には遊水池が2つあるんですよ。今福原自治会館の手前と、あとジョイフル（南文化会館）の東側、隣ですね。あれで、この間の9号のときは、自治会館のところの遊水池だと、道路を挟んで向かい側の畑の方へ流れ込んで、泥が全部さらわれていきました。だから、もう半分入るかどうかぐらいなんです。

建設部長　ジョイフルの脇にあるところ。

意見　いや、手前です。そこに大きい遊水池があるんですけれども。

建設部長　ジョイフルの東側に1つ上下水道局で管理しているものがありまして、それから、手前にあるのが私ども建設部のほうで管理している遊水池です。

意見　あれは、どういう理由であそこを選んだのでしょうか。河岸街道沿いなんですけれども。この間の台風9号のときですか、あのときも随分水害があって、自分の家は門の入り口は大体道路より20センチぐらい高いのですけれども、そこを乗り越えて入ってくるような、そういう水の流れだったんです。

建設部長　私どもここにつきましては、先ほど言いましたように、地形的に低いということと、建物をつくったということも兼ねてここに遊水池を設定したということでございまして、遊水池に入らないで反対側に水が流れ込んでいるというお話も承って確認しております。ただ、私どもとすると、それなりに水は入っていたのかなという考えを持っておるんですが、一度現地で確認させていただいて、もし横断管ですとかあって、それが詰まっているよということであれば、至急それは掃除をしたいと考えております。

意見　何しろ向かい側の畑のところは道路より随分低くなっていて、そんな状況なんです。それをよく確認して改良なり（して欲しい）。せっかくあれだけの大きい遊水

池があるんですから、いざというときに。

建設部長　そうですね。確認させていただきたいと思います。

意見　確認してください。よろしくお願いします。

《県道の拡幅工事》

意見　県道川越・所沢線の拡幅工事の予定が 20 年以上前にありまして、近隣の住民に対しましては、セットバック等について要請をするよう印も押してもらっている経緯がございます。拡幅工事については現在どのようになっているのでしょうか。

都市計画部長　県道川越・所沢線の拡幅についてでございますけれども、こちらは県道になりますので、川越の県土事務所に確認いたしました。現状といたしましては、一応､都市計画決定をされている計画区域が約8割程度確保されているということで、おおむね県土事務所としては道路の機能を果たしているというところを考えているところでございまして、早期に拡幅するという計画は今のところ無いと聞いているところでございます。

ただ、20 年前にセットバック等について説明をしたというような話については、確認したのですけれども、古い話なので詳細はわからないというような回答でございました。

《国道と県道を結ぶ市道の拡幅及び新設工事》

意見　国道 16 号、国道 254 号と県道川越・所沢線を結ぶ市道の拡幅工事や、新設道路の設置予定はあるのでしょうか、お尋ねします。

都市計画部長　国道 254 号と県道川越・所沢線を結ぶ市道を設置するというところでございますけれども、まず、新河岸駅の駅前通り線と、あと外環状線という 2 つがあろうかと思います。

新河岸駅の駅前通り線については、都市計画道路の重点整備路線に位置づけられております。今後 20 年以内にまとめてやっていくというような話ではありますけれども、都市計画道路は複数の事業を行っておりますので、これは予算の状況を見ながら検討を進めていきたいというふうに考えています。検討を進める、事業着手に向けて検討を進めているというところでございます。

また、外環状線、こちらにつきましては、都市計画についてはされているのですけれども、事業主体が国になるのか県になるのかといったところからまだ決まっていな

いという状況でございます。こちらにつきましては、国なり県に対して整備を要望しているところでございますけれども、現在そういった誰がやるのかといったところからまだ決まっていないという状況でございます。

意見　支会長から最初にお話ししたとおり、福原地区には幹線道路がない。その周りを、その出るために生活道路を利用した道路環境です。

今のお話ですと、新河岸駅云々よりも、1つの提案ですけれども、南大塚の国道16号、県道川越・所沢線に来るのを少し、それから、県道川越・所沢線から大井を抜けて国道254号に向かうとか、県道川越・所沢線が南北ですと、今度は東、南、その道路ですよね。そちらの道路を生活道路を拡張という、一番早いのは拡張だと思うんですけれども、そちらをしていただければと思います。先ほど申し上げたとおり、子供たちの通学路に時間帯によってはかなり苦慮しております。ですから、新河岸駅云々、それから外環状線云々、そちらは確かに県がやる道路というのはわかりますけれども、生活道路の整備というか、そういう拡幅工事というのはいかがなものなんでしょうか。

建設部長　生活道路の拡幅になりますと、建設部が事業主体でやっており、基本的に生活道路につきましては、用地のご協力を地権者の方にいただかなければならないものでございます。要望をいただいた中で動いているということでございまして、何本かいただいている中で実際にもう事業にかかっているところもありますし、なかなか進んでいないというのも本当のところでございますけれども、生活道路を拡張して県道川越・所沢線と国道254号、川越街道を結ぶというような計画というのは、私どもの中では今のところは持っておりません。

それをやるのであれば、やはり幹線道路、川越市道の位置づけとしては、一、二級幹線と地区と地区を結ぶ幹線道路と、本当に地域の皆様が利用する生活道路という道路の位置づけになっているわけですが、その一、二級幹線を整備して拡幅してというのは、今後、県道と国道254号を結ぶ道路などがございますので、それを整備することによって、今お話しされたような機能が保てるのかなというふうには考えております。しかしながら、ご存じかと思いますが、福原地区の幹線道路の整備というのは、市道0058号線という幹線道路で、なおかつ福原小ですとか中学校の生徒さんたちの通学路にもなっているところでございますので、まずこれを優先的にやっていくというのが私どもの第一目標でございます。

ですから、その後については、大変重要なお話だということで承る中で、今後考え

ていかなければならないということでご理解いただければと思います。

《通学時間帯の交通規制》

意見　市道 0058 号線というのは、朝の子供たちの通学時間帯と一般車両の通勤時間帯とがぶつかるんです。そういう意味では非常に危険な状況が続いておりまして、交通安全のボランティアさんも一緒になってそこの警戒にも当たっていただいております。事故が起きてからでは遅いので、例えば時間帯を区切って、通学時間帯は車の進入をとめるとか、例えばですよ、これはだめ、あれはだめという方策がないのでは、大人の知恵とは言えませんので、どういうふうな点があるのか、そういうふうなご検討もいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

市民部長　交通規制につきましては基本的には警察の関係になりますので、その辺のところは現状、通学児童の状況、それから車両がどのぐらい台数が通るのかとかというような状況を見させていただいて、それで、警察に市から情報を出すような形で対応させていただきたいと思います。

市長　通学路について、通学時間帯に車が入れないようにするためには、スクールゾーンに指定してもらえれば、それができるんです。スクールゾーンに指定するのは、基本的には警察、公安委員会の仕事で、そのためには、1 つは市も含めて地元の皆さんの一致した強い要望が必要であるということがございます。ですから、今おっしゃられたような課題がある道路であれば、現状を市としても調査させてはいただきますけれども、1 つの方法としてはそういう方法があると思います。

ただ、警察も簡単に認めてくれるわけではございませんで、スクールゾーンにするか、それからゾーン 30 といって、最高速度を 30 キロに制限するという、そういうものもあるのですが、そのゾーン 30 も警察のほうで選んだ地域をゾーン 30 に指定しているというのが現状でございます。市が言ったからすぐにしてくれるというわけではありませんけれども、幾つかそういう方法はあろうかと思いますので、それも含めて検討して、地元の皆さんと一緒に要望するというような、そういうようなことも考えたいと思います。

意見　よろしくお願いします。

※後日、地域会議に対し、以下のように回答しました。

スクールゾーン、ゾーン 30 のいずれも埼玉県公安委員会の権限のもと川越警察署が窓口となっていることから、警察に要望内容を申し伝えます。

なお、ゾーン 30 につきましては、幹線道路又は河川、鉄道等の物理的な境界で区画されたブロックの中で、主として地域住民等の日常生活に利用する生活道路が集積している区域をゾーンとして設定するという要件がありますことから、御要望の場所においてゾーン 30 を実施することは難しいものと考えられますので、御理解賜りますようお願いします。

《市道 6461 号線整備》

意見　中福南の道路についてお尋ねします。上のほうの半分は平成 6 年ごろ 7 メートル拡幅して道路になったんですが、下のほうがまだ拡幅されておりません。20 年以上前からお願いしているのですけれども、拡幅する前にU字溝のふたがないので、U字溝のふただけはしましょうというのでしてもらいましたが、まだ県道から 300 メートルぐらいはU字溝のふたがない実情なんですよ。

それで、この前の大雨のときも、どうしても西から東に水が行くものですから、U字溝のふたがないところがあふれまして、本当に川のようになりまして、どこが道なのか危なくて通れない。一時通れなかったのですけれども、U字溝のふたがないものですから、ときたま車が脱輪して落ちてしまったり、通勤通学の車が結構、朝晩通りまして危険な状態なんです。ふただけでもしていただくようなことはできないんでしょうか。

建設部長　今のお話は市道 6461 号線という番号でよろしいでしょうか。県道川越・所沢線を川越市内から向かって右側、2～3 メートル行くと防風林になって、道路 7 メートルで拡幅されている場所でございますが。

意見　まだその先もずっと拡幅されていないんですけれども。十字路から 7 メートルになっているところです。

建設部長　以前、途中までふたをかけた場所でございますね。

そこにつきましては、平成 8 年と 21 年に、道路拡幅については要望を 7 メートルでいただいて、現地にも幅杭が打ってあるような状況かというふうに思っております。

こちらにつきましては第 1 次改良は既に終わっており、先ほどおっしゃられたとおり、U字溝が入ってふたがかかっていない状況でございますが、地元の方とお話しした中では（道路を）広げてほしいというお話を承っております。そこで、用地買収に協力していただく中で（幅員を）7 メートルにさせていただきたいということで、現

在事業を進めているところでございますが、平成13年に物件調査をしたままもう十数年事業が進んでおらず、大変ご迷惑をおかけして申し訳ないというふうに思っております。登記法が変わりまして、測量、土地を1筆を全て確定しなくてはいけない作業というのが出てきてしまったものですから、それを一度させていただいた後に、事業に協力していただく中で、用地買収等を今後進めさせていただきたいと思っています。大変年数がたってしまい申し訳ございません。

私も先日見に行ったのですけれども、先ほどの県道川越・所沢線から100～200メートルくらいふたがかかっていないところがあります。これにつきましては道路改良の進捗状況を見ながら、あまりにもまた年数が経つようであれば、ふたをかけて危なくないようにしなければならないという考えもございますが、私どもとすると来年度の予算などを見ながら、測量の予算などもつけば、このまま道路改良のほうに進めさせていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

《福原市民センターの建て直し、消防署の設立》

意見　市民センターの建て直しについてお尋ねしたいと思います。

平成25年度に川越市から出された川越市公共施設マネジメント白書では、全年齢人口増減率、年少人口増減率、老年人口増減率、この3部門で、福原地区は今後、積極的な公共施設の設備を検討する地区に挙げられております。

平成28年9月29日には市長宛てに市民センター建設の要望と消防署設立の要望を提出したところでありますが、川越市としてはどのようなお考えがあるのかお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

市長　市民センターについては、それぞれいろいろな地区から建てかえの要望が出ているというような現状でございまして、年数の古いものから順次検討を進めているという、そういう現状でございます。具体的には、芳野、山田、古谷、福原というような、そういうような順番になるのかなという、これは記憶ですけれども、というようなこともございまして、もう少し時間をいただきたいというのが正直なところでございます。

それと、消防署については、消防署のご要望をいただいたのが、今年に入って初めてであろうかというふうに考えております。これにつきましては、検討をさせていただきたいというふうに思っております。

意見　消防署のことで検討と言いましても、福原地区は防災面では森林、雑木林、畑、住宅というような地形に大部分がなっております。その関係で、防災面ではかなり他地区よりもすごいと思うのですけれども、ただ、今懸念されている地震、大きな地震があった場合、福原地区の消防体制というのは、以前ご回答いただきましたとおり、高階分署、大東分署で福原地区をというお考えのようです。これが、高階地区、大東地区がかなりの火災が発生した場合、そのときの福原の防火体制というのはどのようになっているか、ちょっとお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

市長　その辺の何というか対応をどういうふうに考えているのかについては、ちょっと今、私ではお答えができませんので、調べた上で後日回答させていただきます。

意見　わかりました。よろしくお願いします。

※後日、地域会議に対し、以下のように回答しました。

川越地区消防組合では、火災の規模や状況に合わせて、より迅速かつ効果的に消防活動を行うため、出場する消防隊の数を、あらかじめ第 1 出場から第 3 出場に区分した「消防部隊出場計画」を定めております。

通常は、1 件の住宅火災が発生した場合、消防局と消防団を併せた消防ポンプ車 10 台、救急車などの特殊車両を加えて合計 14 台が出場します。

各地区で同時に火災が発生した場合は、火災の規模や状況を考慮し、消防隊を転戦させるなど、消防組合の消防力を最大限に活用した消防隊を編成し対応する体制でございます。

《雑木林を残す取り組み》

意見　緑の保全、雑木林を残す取り組みについてお尋ねします。

雑木林となっている土地の相続時の税金の特例化は、国ではまだ認められておりませんが、川越市から国へ要望していただくことは可能なのでしょうか、お尋ねします。

市長　今、出されました件につきましては、その機会を捉えて要望していきたいというふうに考えております。

《子育て支援施設の建設》

意見　子育て支援施設についてお尋ねします。

福原地区内には子育て施設が少なく、ここで貴精保育園の拡張工事が予定されております。今後新たに建設等がされる予定はあるのでしょうか、お尋ねします。

市長　今のところの状況としては、現在、貴精保育園の定員を 60 人から 80 人に増員するという、そういう具体的な整備を進める予定はございます。

現在、国が平成 29 年度中に待機児童ゼロを目指せという、そういう大号令をかけるという関係もございまして、民間の保育園に建設補助と運営補助を出すことによって来てもらおうということで、今、公募を実施しているところであります。福原地区は子育て施設に関しては少ないという面がございますから、優先地域として福原地区を挙げております。現状ではまだ福原地区のここにつくります、という具体的な募集というか提案は来ていませんけれども、毎年そういうような形で民間の社会福祉法人などに来てもらう、そういうような形で保育園を増やそうという、そういう進め方でやっております。福原地区は手が上がれば必ずつくりますよと、そこを認めますよという、そういうような地区に位置づけておりますので、これから募集をかけた場合に事業者の皆さんが来てくれる、そういう可能性は、市内の中では高いというふうに考えております。

《たくましい子どもを育てる》

意見　少子化、少子化と言われて久しいですけれども、今の子どもたちは団体で遊ばず、家の中でゲーム等をやって遊んでいます。私たちが小さいころは団体で遊んで、子どもたちは子どもたち同士の中でルールをつくって、たくましく育ったような気がします。昔も多分いじめはあったのだろうけれども、自殺する人はいなかったです。だから、そういう観点で、今の子どもたちをたくましくするにはどうしたらいいかということを、川越市ではどのように考えているのでしょうか。

学校教育部長　現在の子供たちというのは、長けているものというのがゲームソフトから入っておりますけれども、ＩＣＴと言われているコンピュータを使うことに非常に長けております。子どもたちは椅子に座って、また、そういうゲーム機などを操作するために集まって、ということで、確かにたくましく遊ぶという状況がありません。ほかの地区でもこういう課題が出ておりまして、学校では集団で扱うものを増やしているという状況でございます。

特に福原地区で行っております「ふくはらまつり」に先日、副部長が参加し、挨拶させていただいたのですけれども、本行事はまことにすばらしいものであり、子供たちだけでなく地域の方、お年寄りも集まって、これがまさしく地域で子供を育てているということを実感したという報告がありました。非常に良いということで、やはり

たくましさはどこから生まれるかというと、仲間関係からということがあるかなと思いますが、それが今できない現状でありますので、縦の関係でということの考え方は大きいと思います。その点で、福原小、中学校は連携を持って育てるということで、良いものを見て強く育てていくという状況が本当に今できていると思っています。

ですから、今は連携ということをポイントに子供たちを育てていくこと。現状から言うと、外で遊んでたくましく育てば良いのですけれども、その辺は難しいので、連携、交流ということを深めることによって育てるような、そういう取り組みに学校自体もなっているということです。特に、地域の方にご協力いただいて、地域が一体となってやっていく。本当に福原地区は、地域とともに子供たちを育てていただいているんだなというのがよくわかる先日の取り組みであったということで、これで育つのではないかなと私は考えております。

意見　要するに昔は子どもたち同士で遊んで餓鬼大将的な存在がいたので、その中からルールを教えて、より身近な関係でしたが、昔もあったと思うんですけれども、今の子供たちはいじめでもとことんまでやっちゃうという、限度を知らないというか。子どもたち同士が遊ぶルールというか限度を知らない。

昔は自分たちもナイフを持っていろいろなふうに物をつくって遊びましたけれども、自分で手を切るとすごい血が出て痛いというのがわかっているから絶対人なんか刺しませんでした。そういうふうなルールというものを育てる環境をどうしたらいいのかなというのがわからないんですけれども、どうしたらいいでしょう。

市長　おっしゃるとおりだと思うんですよ。小さいうちから子供同士で、昔はそれが連綿と次から次へと小さい子供に伝えられていく、そういう状況があったと思うんですが、今はそれが全くなくなってしまった。だから、今の子どもは人間関係が極めて希薄という面があって、大人になってからも困難な人間関係に直面すると、すぐメンタル面で参ってしまうとか、そういう状況が生じていることは間違いないと思います。

ただ、それをどうやって変えていくのかという点については、行政のほうもいろいろなことを考えてはいるんですが、なかなか難しい面がございます。小さいうちに仲間同士で遊ばないというのはどうしてかというと、小さいうちから例えば塾通いをしちゃう、それから、遊びの内容がゲーム機を使ったような遊びがメインになってしまって、ゲーム機は１対１ですから、最近のゲーム機は、幾つかのゲームをつないでみんなでできるかもしれませんけれども、それも結局機械相手ですから、人間の感情と

かそういうようなものとぶつかり合うというようなことはないです。そういう意味では集団でゲームをやったって、ちっとも人間関係を覚えない、そういう状況になってしまっている。これをどうやって変えていくのかは、とても難しい問題だと思います。

せめて言えることは、幼稚園とかあるいは保育園、小学校などの集団生活の中で、人と人との関係の程度であるとかそういうようなものを覚えていく、それを充実していくぐらいしか、今のところ当面の対応策としては考えられないというのが現状だと思います。

意見　機械のゲームというのは無機質なものと向き合っているので、無機質なものと向き合ったら心は育たないと思っています。ただ、その対策がどうしたら良いのか私にもわかりません。ありがとうございました。

《循環型農業》

意見　私は下赤坂地域で農業をしている者でございますけれども、たしか川越市では、世界農業遺産の循環型農業のことで、3 市 1 町ですか、申請をしていることがあると思いますけれども、私は前からすごく疑問に思うんです。というのは、下赤坂地区においても、落ち葉を掃いて循環型農業をやっているというのは、ほとんど私は見かけません。それで、本当に福原地区でも数名の方はやっていると思いますけれども、それをもし、これから落ち葉を掃いて循環型農業を市で一生懸命やるというのなら、よほどの市の補助とかいうのが必要だと思うんですよ。その点はいかがでしょうか。

市長　循環型農法を世界遺産に登録をしようということは、三芳町が中心になってやっていることです。川越市でも全く無関係ではない、かつてはそういうようなことをやっていたし、今でもやられている方がごく数は少ないけれどもいらっしゃるということで、平たく言えば、この地域が一丸となって登録を実現するために協力しようよという、そういう体制を最近つくったという状況なんですよ。

もちろん登録がうまくいったら、循環型農業を続けている方については、それをやめないで続けていただくためのいろんな工夫を行政としてもしていかなければならないというふうには考えております。

意見　うちのほうの地区でも、循環型農業といっても、落ち葉を掃いて堆肥にしてやっておるというわけではないですけれども、専業の家では、豚ぷんとか牛ふんとか、それからチップを使って、堆肥のほうは、畑のほうは十分入っていると思います。ただ、落ち葉は入っていないということなので、なにか市のほうであれば大変うれしく

思うんです。以上です。

《道路側溝》

意見　８年前ですか、タウンミーティングで川合市長に要望して、いろいろと実現していただきましてありがとうございました。

ご承知かもしれませんが、県道川越・所沢線のこちら側の側溝は小さい側溝で、向こうに大きい側溝が入っていると思うんです。福原市民センターの対岸ですけれども、かなり歩道に水かぶっていて、それで、これをどうしたらいいものかなと前の建設部長に相談しました。何カ所か向こうへ行くようにバイパスはつくってあるんですけれども、その工事がこれでは流れないなと素人でもわかるぐらいで、直角に向こうへ行っているんですよ。それで、そのときの建設部長に、はすに入れたらどうでしょうかねと言ったら、その後てきめんに効果がありました。そこで、建設部長に提案したいんですけれども、工事費がかかるということは十分承知していましたが、たまたま都市整備のほうで舗装をやりかえるということでやっていただきましたら、本当にその効果があったということで、提案したいと思うんです。よろしくお願いいたします。

5、6カ所、農協とか小学校の前にも入っているんですけれども直角なので、どうしても水の流れは真っすぐ行くのが当たり前だから、直角では流れないというのを実感しました。そういう改良工事するときに、私は素人なんですけれども、提案したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

建設部長　今のお話、十分承りました。

ただ、県道になりますので、私どものほうですぐ予算がどうのこうのというわけにはいきません。管轄しているのは埼玉県の、この辺りですと川越県土整備事務所ということでございますので、そちらのほうに、何か事業を県でやるときには、あわせてぜひともやってほしい、こういうお話がありましたというお話はお伝えいたしたいというふうに思っております。よろしいでしょうか。

意見　ありがとうございました。全然効果がないというのを実感したので、ご提案ということで参考にしていただければと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

建設部長　わかりました。ありがとうございます。

《ガードレール、歩道の整備》

意見　最近ニュースで、通学の最中に児童のところに車が突っ込んだりするというような事故が何件かありまして、自分も福原地区のところで全部把握はできていないんですけれども、そういうガードレールのポールのない通学路が多くあるのですけれども、建設予定とかはありますでしょうか。

あとは公園に行くまでも、歩道がちょっと安全な道という感じではないので、親も子どもも安心して通行できるような歩道をつくっていただけたらと思うのですが、その予定はございますでしょうか。

建設部長　歩道につきましては、やはりどうしても地権者の皆様の用地に対するご協力が必要ということになりますので、今のところ、きちんとした歩道の形態という中では、先ほど申し上げましたような市道 0058 号線の道路につきましては、エースコック側に歩道をつけた道路の拡幅を進めているところでございます。

あと、幾つか生活道路でも拡幅要望が出ておりまして、何号線か手をつけているところはございますが、それにつきましては、大体基本的に 7 メートルでございますので、両側に外側線を入れた中で、車が来たときには外側の外の側溝にふたをかけます。そこのところを歩道がわりとして歩いていただければ良いかなと考えております。

それから、既設の道路の中でのガードレールということでございますけれども、やはりこれを設置するためには、警察との協議も必要になってくるわけでございます。用地を皆様からご協力いただかないで既設の道路の幅員の中でガードレールを設置するとなれば、ある程度の道路の幅員を持った道路でないと設置できないという、逆に車同士が衝突して危ないとかいうことになりますので、そういった中でいろいろ要望をいただいている箇所もございます。それを判断しながら今後、警察等と協議して、児童の安全を確保するためにガードレールの設置等は、やっていきたいと考えております。

市長　これも道路の幅によるんですけれども、ガードレールがだめな場合に、プラスチックの赤白のポールを立てるという、そういう方法もあります。ただ、そのポールは、スピードを上げて突っ込んできた車に対しては何の力も持たないと、抵抗にはならないという、そういう面はありますけれども、車が余り路肩のほうに寄ってこないような、そういう効果はございますので、具体的にここのところにそういうようなことをやってほしいというご要望をいただければ、警察との相談ということにもなりますけれども、対応はできると思います。

《農道の舗装》

意見　ご存じのとおり、福原は農業地帯なので、赤坂と中福に土地改良した土地があるんですけれども、まだ砂利道で舗装になっていないんです。田んぼのほうへ行くと、どこの細い道へ行っても田んぼはみんな舗装です。福原のほうの土地改良したところは、いまだに舗装になっていません。赤坂に土地改良した土地が１つありまして、そこの中福東の土地もありまして、そこもできたら舗装にして、仮舗装でもよろしいんでしょうけれども、できるだけ早く整備をお願いしたいかなと思っております。よろしくお願いいたします。

市長　畑の中の道で農道ということになるんでしょうね。それについては、ご要望として対応させていただきます。

ありがとうございました。

《学校の統廃合》

意見　先ほどの高齢者部会、高齢者の集い、それから学校教育部長からのお話もあったふくはらまつり等で、小学校低学年から高齢者まで縦で、社会で福原地区はまとまっているということをお話しいただきました。ありがとうございます。

そういう観点から、福原小学校、中学校ができてから福原地区は１村１校というんですか、そういう状態で来ています。それで、先ほど申したとおり福原地区は通学路の範囲が広いものですから、中台地区もろもろ、隣接している高階地区、大東地区等、を学校の通学路にしている子供たちの数が多くなってきました。そういう観点から、福原地区に小学校、中学校が隣接してありますので、統合という考え方というのはできないものか、ちょっとお聞きします。

市長　学校の統合については、今現在、川越市は具体的な計画は持っていないと思うんですが、教育委員会はどうでしょう。

学校教育部長　統合の計画自体は今現在ございません。今お話しくださいました小中一貫教育ということの中でお話ししますと、福原小学校と中学校は連携が進んでおります。この連携の延長上に一貫教育があると考えております。

５から 10 年先の問題ということでお話しいただきましたけれども、子供の数、または校舎の状況、あと県、国の様子から申しまして、もう少し長いスパンになるかなというように考えています。ただし、連携の上に一貫があるということで、実際は福原小学校、中学校は９年間でお育ていただいているという状況であると私どもは把握し

ているということでございます。ですので、これをさらに一歩進めまして、教育委員会としては、教育委員会内部で今、学校のあり方の検討ということで協議しておるところでございますけれども、この導入についての課題についても、実は福原小・中では、やはり市内の先駆け的なモデル校として、今後、小・中の連携の上に立った一貫を検討していくという方向で進んでいるところでございます。

今、校長2人が同席しておりますが、お二人を含めた検討の会議をもちながら、将来的に10年後、20年後には統廃合の関係とかも出てまいると思いますので、そういう長いスパンを見た検討をしていくことを始めているところでございます。

市長　基本的に学校の統合というのは、生徒数が減少して1つの学校を維持するのがいろいろな面で大変難しくなっているという、そういう状況にならないとあまり考えないんですよね。幸いなことに、川越市は今のところ、生徒数がどんどん減ってしまい、これでは維持できないよという、そういう学校は今のところないんです。というわけで、統合については、具体的な考え、計画というものはないというのが現状でございます。

《生活道路優先の整備》

意見　皆さんから出ましたとおり、学校周辺の生活道路についても大分危惧しております。そちらのほうの整備、それが子供たちの通学路の安全、また高齢者にとりましても、こういうコミュニティの基点となります市民センター等に出かけるにあたっての方向性が見えてくると思うんです。バスで公共施設、公共の乗り物を使って福原市民センターへ来るというのはなかなか大変でありますので、できるだけこの小、中学校、市民センターのせめて1キロ範囲ぐらいは、ちょっと安全面を重点的に県に働きかけるとか、市でできる限りのことを進めていただきたいと思っておるんですが、その点はいかがでしょうか。

市長　市民センターを中心に一定の範囲内を優先的に歩道あるいは生活道路等の整備をしてほしいという、そういうご要望だと思うんですけれども、それも1つのやり方の考え方だと思うので、取り入れる余地はあるというふうに考えます。

意見　ありがとうございました。

福原地域会議会長　福原地区でタウンミーティングを開いていただきまして、大変ありがとうございました。福原地区の地域会議としましても、現状と課題につきまして

は、今、皆さんに発表したとおりでございます。できますれば川越市におかれましては、できるところから早急に福原地区の市民の生命、財産を守る方向で進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

市長　本日は、大勢の方からさまざまなご意見、ご要望を頂戴しましてありがとうございます。いろんな面でまだまだ、特に道路等については足らない面があるなというふうには感じておりますので、その辺のところはご理解いただきたいというふうに思う次第でございます。

これからも、もしいろいろ具体的なご要望等がございましたら、こういう場に限らず自治会で取りまとめていただいて、積極的にお出しいただくというようなことも考えていただいていいのかなと。もちろん、要望がされたからといって、すぐに対応できるものとそうでないものがあるというのはご理解いただきたいとは思うんですが、こういう場面に限らずいろんなことをどんどんと提案して、あるいは言っていただくような、そういうようなことをやっていただきたいというふうに考えます。

本日は本当に、夜分、大勢の方にお集まりをいただきまして、ありがとうございました。